

今月の



隣に伝えたい

新たな言葉と概念

【アドヒアランス】

英 Adherence

Adherence は、ジーニアス英和大辞典によると①執着，固守；心棒，支持，②粘着，付着と訳されている。アドヒアランスの関連用語として、「コンプライアンス」と比べられながら、いろいろな解説が出されている。コンプライアンスは、社会的には、「法令遵守」の意味で使用されており、医療では「服薬遵守」とされ、医療側の指示に従い、どの程度服用するかという概念であった。これに対し、日本で使われるアドヒアランスとは、治療効果を上げるため、患者自身の治療への積極的な参加がキーポイントという概念から生まれており、日本薬学会の用語解説では、「アドヒアランスとは、患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けることを意味する」とされている。日本においては、おそらく、HIV 感染症患者に対してアドヒアランスが最初に使われてきたと思われ、現在では様々な慢性疾患において、コンプライアンスからアドヒアランスに移り変わってきていると思われる。

世界保健機構（WHO）では、2001年にアドヒアランスに関する会議が開催され、コンプライアンスからアドヒアランスに移行するよう推奨されており、「Adherence to long-term therapies: evidence for action」として、慢性疾患である、喘息、がん（疼痛ケア）、うつ病、糖尿病、てんかん、HIV、高血圧、喫煙、結核の9つについて取り組まれ、エビデンスに基づく報告が出され、アドヒアランスの重要性が発信されている。

（国立病院機構東京医療センター 薬剤課長 鈴木義彦）本誌105pに記載